

早期胃癌研究会 2022 年最優秀症例賞は 岩手医科大学消化器内科分野が受賞

早期胃癌研究会では、月次例会において毎回原則として4例の症例が提示され、臨床所見、病理所見ともに詳細かつ高質な討議が行われている。2003年より、年間に提示された症例の中から模範となる優秀な症例に対して「早期胃癌研究会最優秀症例賞」が贈られることになった。

19回目の表彰となる早期胃癌研究会 最優秀症例賞は、岩手医科大学内科学講座消化器内科分野 郷内貴弘氏の発表した「IMHMOV (idiopathic myointimal hyperplasia of mesenteric veins) の1例」に贈られた。2023年3月15日(水)にウェビナー形式で開催された早期胃癌研究会の席上で、その表彰式が行われた。

賞状の贈呈に先立ち、早期胃癌研究会運営幹事の小澤俊文氏(総合犬山中央病院消化器内科)が“運営委員会での検討を経て候補症例を3例に絞った。最終的な検討の結果、症例自体も珍しく、画像が美しい点や追跡がなされているといった臨床的な態度も含めて評価し、最優秀症例賞に選出した”と選考過程を説明した。

続いて、早期胃癌研究会運営委員長の江崎幹宏氏(佐賀大学医学部消化器内科)より表彰が行われ、“この症例はIMHMOVの特徴をよく表しており、非常に勉強になる症例だったと思います。この度は本当におめでとうございました”と祝辞が贈られた。

表彰を受けた郷内氏は、“この度は、このような身に余る輝かしい賞をいただきまして誠に光栄に存じます。この症例は、私が消化器内科医、内視鏡医になりたてのときに経験させていただいた症例となります。松本教授、菅井教授をはじめ多くの上司の先生方にご指導いただき、多くの学びがございました。



▲ 最優秀症例賞を受賞した郷内貴弘氏。

たった1例の症例ではありますが、X線読影と内視鏡読影だけではなく、病理医との連携、そして外科医との連携が消化器診療においていかに重要であるかを実感した1例でした。ご指導いただいた先生方に感謝いたしますとともに、これからも1例1例を大事に診療に邁進して参りたいと思います。この度は本当にありがとうございました”と受賞の挨拶を述べた。

引き続き郷内氏より受賞症例の解説が行われ、この貴重な症例の発表が終わると、Web上で視聴していた参加者から盛大な拍手が送られた。